

来ぬ人よまつぼの浦の

フキ返す

夕風に焼くや藻塩の

身もこがれつゝ

フキ返す

来ない人を待つ、その松帆の浦の夕なぎの時に焼く藻塩のように、  
わが身は恋心に焦がれている。

中一三三

(百人一首 九七番 権中納言定家)